

富山市山岳域自然調査報告（2017）

著者	藤田 将人，吉岡 翼，岩田 朋文，太田 道人
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	42
ページ	61-64
発行年	2018-07-01
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=447

富山市山岳域自然調査報告(2017) *

藤田 将人¹⁾, 吉岡 翼¹⁾, 岩田 朋文¹⁾, 太田 道人¹⁾

¹⁾ 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Research report of nature in mountain region in Toyama City (2017)

Masato Fujita¹⁾, Tasuku Yoshioka¹⁾, Tomofumi Iwata¹⁾, Michihito Ohta¹⁾

¹⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama, 939-8084, Japan

The geology, topology, fauna, and flora of the alpine and subalpine zone between Tarobedaira and Kumonotaira in Toyama City were researched. Volcanic landforms such as the lava plateau and andesite with platy joint at Kumonotaira were recognized. Cirques in the west slope of the southeast ridge of Yakushi-dake was recognized as glacial landforms.

About 30 species of insects were observed during the research. In general, *Erebia neriene* (Böber), *Aeshna crenata* Hagen, *Cicindela sachalinensis* Morawitz, *Leucorrhinia dubia* (Van der Linden), *Nicrophorus vespilloides* (Herbst) are species observed at places with high altitudes, which were unique results of research of mountainous areas.

Rock ptarmigans were observed on the trail of Taroyama and Jii-dake. And more than 2300 plant distribution data were extracted from Exif information of photographs.

Key words : geology, cirque, lava plateau, flora, insect, bird, alpine and subalpine zone, Toyama City
キーワード : 地質, 圏谷, 溶岩台地, 植物分布, 昆虫, 鳥, 高山・亜高山帯, 富山市

はじめに

富山市は標高2500 mを越える高山を多数有する自然豊かな行政区であるが、特に山岳域に分布する地形、地質、植生等の自然の特徴は充分に把握されているとは言えない。富山市科学博物館では、常願寺川源流域及び黒部川源流域の特徴的な地形や地質、生物分布等に関する知見を得ることを目的とし、2013年から10年計画で調査を開始した。5年目である2017年は、富山市の黒部川源流域を調査地域とし、予備的に状況確認を行ったのでその結果について報告する。今後、調査地域を拡大し、より詳細な調査を行う予定である。

なお、調査に際し、富山森林管理署、五十嶋博文氏の協力を得た。

調査日程とルート

調査は2017年8月28日(月)～8月31日(木)に行った。有峰の折立から太郎平、薬師沢小屋、雲ノ平、高天原、岩苔乗越、祖父岳を経由して雲ノ平まで戻るルートで、稜線及び谷沿いの登山道とその周辺を調査した(図1)。現

地調査は著者のうち、藤田、吉岡、岩田で行った。

- ・8月28日(月) 晴れ
折立 - 太郎平 - 薬師沢 (薬師沢小屋泊)
- ・8月29日(火) 晴れ
薬師沢小屋 - 雲ノ平 - 高天原 (高天原山荘泊)
- ・8月30日(水) 雨のち晴れ
高天原山荘 - 岩苔小谷 - 岩苔乗越 - 祖父岳 - 雲ノ平 (雲ノ平山荘泊)
- ・8月31日(木) 晴れ
雲ノ平山荘 - 薬師沢 - 太郎平 - 折立

調査方法

調査地域の大部分は国立公園特別保護地区内であるため、資料のサンプリングは行わず、目視による確認及び写真撮影による記録を行った。特に動植物の同定は主として踏査時の記録写真によるものである。展望の良好な場所では、プラネタリウムで投影するために、全天球アクションカメラ(Kodak製 PIXPRO 4KVR360)により、太郎平、雲ノ平、高天原など21箇所動画を撮影した。

* 富山市科学博物館研究業績第530号

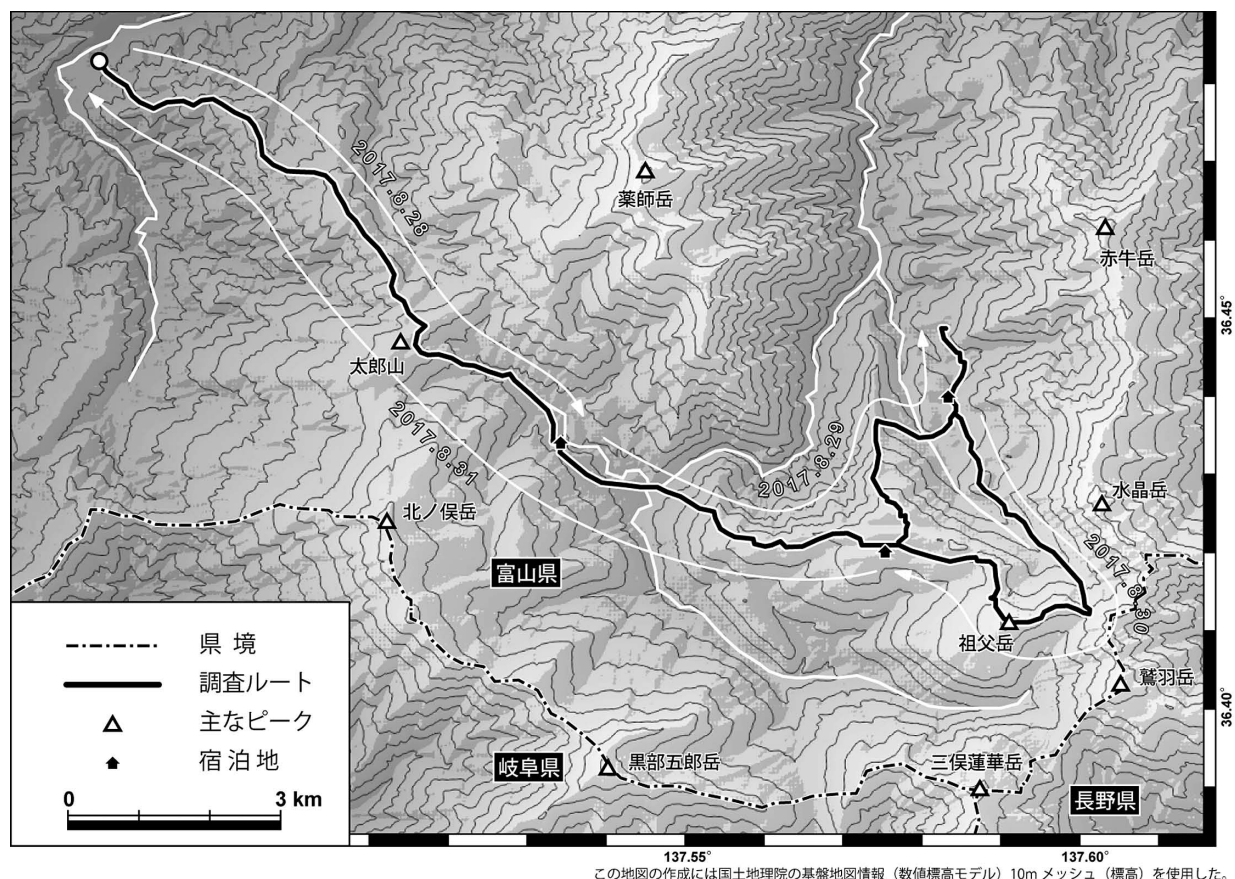


図1 調査ルート

地形・地質

調査地域は主にジュラ紀，白亜紀－古第三紀の花崗岩類が分布し，第四紀の火山岩類，ジュラ紀－白亜紀の堆積岩が小規模に分布する（原山ほか，1991）．調査地域を特徴づける代表的な地形・地質について述べる．

火山地形および火山岩

雲ノ平の溶岩台地とその上に広がる池塘群を確認した（図2）．祖父岳から雲ノ平間の登山道中に板状節理が発達する安山岩を確認した．



図2 雲ノ平の池塘群

氷河地形

薬師沢～カベツケヶ原間の登山道から薬師岳東南尾根の西側に発達するカールを確認した．祖父岳～雲ノ平のスイス庭園の登山道沿いで，安山岩質の溶岩上に氷河削痕と考えられる幅約3 cm，長さ約100～150 cmの溝を発見した（図3）．



図3 氷河削痕と考えられる溝

地滑り地形

水晶岳と雲ノ平に囲まれた，岩苔小谷の右岸に分布する高高原（図4）や竜晶池，水晶池などを確認した．これ

らは水晶岳の西面の地滑りによって形成された緩傾斜地や、閉鎖凹地が水域となったものと考えられている（荻谷ほか，2013）。



図4 高天原

手取層群

太郎山～薬師沢の登山道沿いに露出する手取層群（後期ジュラ紀～前期白亜紀）を調査した。塊状の粗粒～細粒砂岩を主とし、時々厚さ数10 cmの黄灰色または淡緑色シルトを挟む。標高2180 mの地層の走向傾斜はN28° E10° Sであった。薬師沢近くでは、基質支持の最大径約50 cmの礫からなる礫岩が分布する。礫種は花崗岩が多く、円～亜円礫からなる（図5）。



図5 手取層群の礫岩

脊椎動物

太郎山付近及び祖父岳西方の登山道沿いでライチョウを、雲ノ平ではハイマツ帯のホシガラスや上空を飛翔するノスリを確認した。薬師沢小屋周辺ではアズマヒキガエルが見られた。雲ノ平ではキツネのものと思われる糞が複数みられたほか、白骨化し風化の進んだ小型の食肉目の骨を登山道わきで確認した。

昆虫

昆虫類は登山道沿いの池塘や植物、地面の上で見られるものを写真撮影することで記録した。写真撮影での記録であるため、同定が正確にできない場合が多かったが、以下に確認された種と場所について簡単にまとめた。

調査期間中、昆虫類は約30種を確認した。

折立から太郎平小屋の間では、登山道沿いにベニヒカゲ *Erebia neriene* (Böber)を確認した。また、各種花にはイチモンジセセリ *Parnara guttata* (Bremer et Grey)、オオマルハナバチ *Bombus hypocrita hypocrita* Pérezと思われる種、ハナアブ類、カミキリムシ類などの訪花性昆虫が見られた。登山道周辺には池塘もあり、オオルリボシヤンマ *Aeshna crenata* Hagen、エゾコセアカアメンボ *Gerris yezoensis* Miyamotoと思われる種、マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharpと思われる種、ミズムシ科 *Corixidae* の一種を確認した。太郎平小屋から薬師沢小屋の間では登山道沿いのガレ場でミヤマハンミョウ *Cicindela sachalinensis* Morawitzを確認したほか、ヒゲボソムシヒキの一種と思われる種やマルハナバチの一種も地面の上で観察した。雲ノ平では、地面の上でオオキンカメムシ *Eucorysses grandis* (Thunberg) の死体、ヒナバッタの一種を確認したほか、池塘ではエゾコセアカアメンボと思われる種、マメゲンゴロウと思われる種、ミズムシの一種、およびトビケラ目 *Trichoptera* の一種を観察した。高天原、および竜昌池などではオオルリボシヤンマ、カオジロトンボ *Leucorrhinia dubia* (Van der Linden)、アオイトトンボ *Lestes sponsa* (Hansemann) などを確認した。また岩苔乗越付近の獣糞ではツノグロモンシデムシ *Nicrophorus vespilloides* (Herbst)を確認した。

ベニヒカゲ（図6）、オオルリボシヤンマ（図7）、カオジロトンボ（図8）、ミヤマハンミョウ（図9）、ツノグロモンシデムシ（図10）は高標高地帯を好む昆虫であり、山岳域の調査ならではの昆虫である。



図6 ベニヒカゲ



図7 オオルリボシヤンマ



図10 ツノグロモンシデムシ



図8 カオジロトンボ



図9 ミヤマハンミョウ

植物

吉岡が現地で撮影した約2000枚の植物写真ファイルのEXIF情報から緯度経度、撮影日時、標高の値を抽出し、写っている植物を太田が同定することで、約2300件の植物分布情報を得た。同定できた種は194種であった。

主な記録として、タテヤマキンバイ（岩苔乗越）、ヒメイチゲ（雲ノ平奥日本庭園）、クモマグサ（岩苔乗越）、オタカラコウ（薬師沢中流、岩苔乗越）などが得られた。また、この地域の普通植物であるイワイチョウ、コガネギク、ヒゲノガリヤス、コバイケイソウ、ハイマツ、ハッコウダゴヨウ、オオシラビソなどの分布情報についても、網羅的に館の植物データベースに格納した。

文献

原山 智・竹内 誠・中野 俊, 1991. 槍ヶ岳地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 地質調査所, 190pp.

荻谷愛彦・高岡貞夫・佐藤 剛, 2013. 北アルプスの地すべりと山岳の植生. 地学雑誌, 122(4): 768-790.